

## 【脱字？】

漢文で書かれた『須永日記』はさまざまな理由で意味がよく分からないところが多々あります。自分の勉強不足を棚に上げて須永の書き間違いと決めつけるのは避けなければならぬと思いますが、やはりそうとしか思えないところがあります。

今回はそんな例を挙げたいと思います。その適否を皆さんに判断していただければ幸いです。

明治 21 年 1 月 30 日の日記を紐解いてみましょう。

山田惟一寄書曰、今朝到着小笠原島、以明日十二時、招余。

山田惟一とは、甲申政変の失敗で日本に亡命した柳赫魯の日本名です。小笠原島で抑留生活を送っている金玉均のもとをたびたび訪れていました。素直に読むと、次のように意識できます。

「山田惟一から書が寄せられた。それにはこう書いている。今朝小笠原に着いた。私は明日 12 時に来るよう招かれた」

しかし、当時船で一週間以上かかった小笠原に到着したという報がその日のうちに東京にいる須永のもとに届くわけがありません。ここは「小笠原島」の前に「自」を読むのが分かりやすいでしょう。

つまり、山田惟一寄書曰、今朝自小笠原島到着、以明日十二時、招余。

「山田惟一から書が寄せられた。それにはこう書いている。山田惟一は今朝、小笠原島から帰着した。私（須永）は明日 12 時に来るよう招かれた」。

到着地がありませんが、それは須永には自明のこととして書かなかったのでしょうか。翌 31 日の日記にはこうあります。

訪山田惟一、受取岩田氏手翰并揮毫。

「(私須永は) 山田惟一を訪問し、岩田氏 (金玉均) の手翰と揮毫を受け取った」

1 月 30 日の日記の解釈には頭を悩ませましたが、「自」が抜けていたとすればすんなり分かります。

## 【余談】

前回取り上げた南怡将軍は、南怡島の名前の由来になったとも言われています。この島は韓流ブームを巻き起こしたドラマ「冬のソナタ」で主役の二人がデートを重ねた所ですから、日本から訪れる人も多いようです。ここには将軍の墓と言い伝えのある石積みの塚があり、その石を持ち帰ると身内に不幸が訪れるという伝説がありますが、『韓国民族文化大百科事典』によると、その後塚に土がかぶせられ、周囲が整備されたということです。

2024 年 3 月 21 日 広沢有久